

開催日時：2016年9月21日（水）18：30～20：30

会場：JICA研究所（市ヶ谷）2階 大会議室

[アクセスはこちらをご覧ください](#)

テーマ：「日本人の景観認識と景観政策」後篇（同名で2015年5月、日本評論社刊）

内容：日本の都市は一部地域を除いて、電線電柱や派手な屋外広告物、そで看板、垂れ幕、不ぞろいな建築物、放置自転車、自動販売機など、ヨーロッパ諸国等に比べて都市景観の秩序と美的調和の面で問題を抱えている。都市機能の高度化が目覚ましい日本で、都市景観が依然として貧弱な根本的原因と背景はどのようなものなのか。そこには日本の風土や日本人の自然観、風景・景観認識、集落・都市形成過程、公共空間の認識と評価等が大きく関わっていると考えられる。同時にそれらが景観行政など景観政策の主たる規定要因となっていることも疑い得ない。それらの問題をヨーロッパ諸国等との比較的視点から考察し、あるべき日本の景観政策を考察する。

これまで都市景観、景観政策に関する研究は、都市計画、都市工学、建築学、建築史など理系分野の専門家、研究者による研究がほとんどだった。社会科学では、地理学や都市社会学などの一部に止まっている。最近の景観をめぐるトラブルや訴訟の頻発で民法や行政法、地方自治の研究者も関心を示しているが、少数に止まっている。問題はそれらの研究が総合化されていないことである。都市景観、景観政策の問題が建築物やインフラのみならず、都市政策とそれを支える市民意識など都市生活全般に関わる総合的なものであることを考えれば、その研究も学際的、総合政策的であることが求められる。以上のような問題状況と問題意識から、以下の構成で考察を進める。

第1章「日本の都市景観の現況」

第2章「都市景観研究の軌跡」

第3章「日本人の自然観・風景観と集落・都市形成」

第4章「日本の近代化と都市景観」

第5章「日本における景観政策の現状と課題」

第6章「都市景観に関する市民意識の動向」

第7章「景観訴訟と景観権確立の可能性」

終章「都市生活と都市景観」

講師：土岐 寛（とき・ひろし）

講師略歴：1944年山形県生まれ。京都大学法学部卒業。（財）東京市政調査会研究員、大東文化大学法学部教授などを経て、現在、大東文化大学名誉教授。専攻：地方自治・都市政策。主要著書、『東京問題の政治学』『地方自治とまちづくり』『スローな都市の散歩道』『景観行政とまちづくり』『世界の街角・まちづくり』など。

参加費：会員（無料）

非会員（¥1,000）・学生（¥500）

（尚、参加費はセミナー当日に頂きます）

懇親会：セミナー終了後JICA研究所近郊で、講師の方を囲んでセミナーで学んだ内容についてお話しできればと思います。一人様¥3000程度を考えておりますので、有志の方々のご参加願います。